

# 学校法人羽陽学園

## 第二次 アクションプラン

(令和3年度～令和7年度)



建学の精神

「敬・実・和」

令和3年3月

はじめに

## 1 策定の趣旨

本学園は、平成 28 年 5 月に、平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間にわたる学校法人羽陽学園第一次アクションプランを策定し、各年度に事業等の進捗状況や課題、目標の達成状況等の整理・分析を行い、事業内容の見直しや改善を図ってまいりました。その結果、概ね目標を達成したところです。

この間、令和元年 11 月 6 日付け文部科学省高等教育局長通知「学園運営調査の指導・助言事項」を受け、令和 2 年度から令和 4 年度の 3 年間のミッションとしての「学園経営改善短期アクションプラン」を策定し、現在、鋭意取り組んでいるところです。

さて、我が国においては、本格的な人口減少社会の到来により、18 歳人口も 2005 年は約 137 万人、2016 年は約 119 万人、2030 年は約 100 万人、2040 年は約 80 万人と大きく減少すると予測されています。

このように激変する社会変化の中で、進化論のダーウィンの言葉にある「強い者が生き残れるのではなく、最も賢い者が生き残る者でもない。唯一生き残るのは、変化する者である。

「(種の起源)より」と捉え、社会と時代の動向と密接に関係した教育活動を展開するとともに、変化に応じた教育改革や財政健全化、戦略的経営・運営を果敢に実行していく必要があります。

最近の国の動きに着眼すると、若い世代が理想の子ども数を持たない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最大の理由であり、希望出生率 1.8 を掲げ、子育てと仕事の両立や、子育てや教育にかかる費用負担の軽減から、少子化対策の一つとして、幼児教育・保育の無償化や高等教育の修学支援新制度が導入されました。

このような中で、幼児教育については、地域における保育ニーズや教育活動の変化、少子化・都市化等を踏まえた社会的ニーズの変化に対応し、より一層、地域とともに発展・継続し、地域との連携・交流の促進を図っていく必要があります。

高等教育については、「何を学び、身に付けることができるのか。」を中軸に据えた学修者本位の高等教育への転換や、個々人の「強み」や才能を最大限伸長する教育やリカレント教育を通じ 18 歳で入学する従来モデルから脱却し、社会人や障がいのある学生など多様な年齢層の多様なニーズを持った学生への教育体制が必要です。

これを実践するために、多様で質の高い教育プログラムや高等教育機関の多様な強みの強化、他の高等教育機関や産業界、地方公共団体との恒常的な連携体制を構築していく必要があります。

## 2 プランの性格

アクションプランは、学園の方向性を実現するために取り組む主な重点事業の方向性と推進工程を示したものです。

### 3 実施期間

令和3年度から令和7年度までの5年間

### 4 進行管理

毎年、事業等の進捗状況や課題、目標の達成状況等の整理・分析を行い、事業の内容を見直し、改善を図ります。

なお、社会経済情勢の変化などにより内容の変更が必要な場合には、弾力的な対応を図ります。

### 5 建学の精神・ミッションを踏まえた学校法人の目指す将来像

#### (1) 基本的方向性

学校法人は、建学の精神のもと、ミッション(使命)とビジョン(見通し)を提示して自らが進むべき方向を見出し、それに沿った経営戦略を立てていく必要がある。

経営基盤の強化と教学の充実は車の両輪であり、園児や学生にとって魅力的な質の高い教育を提供する教学の充実は、経営基盤の強化に直結する。

本学園の建学の精神「敬・実・和」(まごころをもって、他の人を敬愛し、和をはかる)のもと、幼稚園・認定こども園は、「仲良く、正しく、強く、朗らかに」を目指し、園児の健全な心身の発達助長に努め、時代の進展に対応する「開かれた幼稚園」として、生きる力と学びのもととなる意欲づくりの場としての教育実践を目標とする。

山形調理師専門学校は、時代や社会の要請に応じ、有能で人間性豊かな調理師の養成を目指す。本校は、県内に二つある調理師養成専門学校の県内の中心部に位置する養成専門学校として、多様に変化する県民・国民の食へのニーズやフードビジネス産業の状況に応じて、調理現場で活かせる実践能力を身に付けるとともに、知識と技術(技能)を連動させることのできる調理師の輩出を目標とする。

羽陽学園短期大学は、他者理解を通して自己理解と自己改革を行い、社会活動に積極的に参加しながら、生涯にわたる自己実現を行いうる人間性豊かな人材の育成を目指す。「知」の供給や地域社会の活性化への貢献を通じ、地域で必要とされる幼児教育指導者や高齢者・障害者の介護従事者の人材の育成、小規模ゆえのきめ細かい教育など、長所を活かした多様な教育の充実を図る。

なお、地方の小規模私立短期大学は、スケールメリットや国公立大学との競争上、ハンデを負っており、経営が厳しい状況にあることを認識し、地方の発展と人材供給に貢献している短大の灯を消さないためにも、さらなる経営改善を目標とする。

#### (2) 経営困難に直面した人的確保

「教育は人なり」と言われるように、優秀な教職員を確保し、人材の育成を図りながら、経営の危機を脱し、安定的に運営することが私学に求められる重要な課題であり、教職員は最大の人的資源ととらえる。

(3) 健康で安全に過ごせる施設環境の確保

園児や学生の健康と安全を最優先し、日照や採光、室温・通風等に配慮した良好な施設環境を確保する。

(4) 教育のコア・コンピタンス(競合他校・他園を圧倒的に上回るレベルの能力)

少子化の著しい進行に伴い、園児や学生の獲得も容易でなくなっている。高度経済成長期以降の教育は、際限のない生産とそれに伴う経済成長の波に乗りさえすれば、特化より規模拡大の伴った複合化路線が主流であったが成長神話の崩壊により見直しが急務となっている。

幼稚園や短期大学、専門学校の中でも老舗としてのブランド力を発揮し、生き延びる道を選択しているところもあるが、本学園は、ブランド力を発揮しながらも、常に時代が要求する新しい教育を提供し続けるための不断の教育改革が不可欠である。

(5) 経営の透明性の確保とディスクローズ(情報公開)

私立学校法の改正で、学校法人が公共性の高い法人としての説明責任を果たし、関係者の理解と協力を一層得られるよう、以前よりも情報公開を重視しており、これに適切に対応していく。

(6) ステークホルダー(利害関係者)の確保

持続的発展を目指した経営戦略を考えるうえで、ステークホルダーを誰にするかが重要な観点であり、在學生や保護者、卒業生、企業、地域社会、行政機関等関係者からの協力支援は不可欠である。費用対効果を重視し、学園のための最善の利益を再考していく。

(7) ナッジ理論を応用した広告宣伝や園児・学生募集

2017年に、シカゴ大学の行動経済学者リチャード・セイラー教授がノーベル経済学賞を受賞した「ナッジ理論」を応用した広告宣伝や園児・学生募集の方法を検討していく。

※ナッジ理論とは、「肘で軽く付くような小さなアプローチで、人の行動を変える戦略」である。行動経済学であり、「心理学を応用し、人間は情報や感情に流されて動くと言う点」を研究する学問であり、国や自治体で、この理論の応用を進めている。

## ○羽陽学園短期大学

- 1 建学の精神に基づき、地域社会や附属園と連携して、質の高い幼児教育・保育者や介護福祉士を養成するという社会的使命を達成します。
- 2 学生を社会に送り出すにあたり、密接に関連した3つのポリシーとなっているか、学生や社会にわかりやすいものとなるよう、不断の点検を怠らず改善に努めます。
- 3 ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーのもと、幼稚園教諭・保育士・介護福祉士を養成するための教育課程を常に点検し改善するよう努めます。
- 4 スマートフォンを使った授業評価や質疑応答の実施など、幼児教育・福祉の分野でも Society5.0 の進展に合わせた教育を実現できるよう、ICT の活用を推進します。

### ※Society5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すもの。

- 5 健康で安全なキャンパスの整備に努めます。
- 6 離転職者職業訓練や介護福祉士実務者研修など、既存の事業に加え、長期履修制度の導入など、社会人のリカレント教育を充実させるための方策を検討します。
- 7 山形県未来創造プラットフォームを利用して県内他大学・自治体・産業界との連携を深め、地域の高等教育の振興に貢献します。

### ※山形県未来創造プラットフォーム

県内大学等の強みを活かす取り組みを、自治体や産業界と連携して進めることにより、生徒・学生の県内進学率と卒業後の県内就職率を上昇させ、さらなる山形県の発展に寄与することを目標に2018年に発足しました。

（参加大学等・企業・団体）

山形県・山形市・山形県商工会議所連合会・山形県商工会連合会・山形県社会福祉協議会

国立大学法人山形大学・独立行政法人国立高等専門学校機構鶴岡工業高等専門学校  
山形県立保健医療大学・羽陽学園短期大学・東北公益文科大学・東北文教大学・東北文教短期大学部

(主要事業とその工程)

主要事業・施策	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
○三つのポリシーの見直し	⇒試案完成	⇒継続検討	⇒継続検討	⇒継続検討	⇒継続検討
○教育の質の向上					
・教育の評価体制整備	⇒改訂	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・FD・SD 活動の推進	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・授業評価アンケート	⇒改訂案完成	⇒本格実施	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・ICT の推進	⇒一部実施	⇒全面实施	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・教育環境の整備	⇒本館空調更新 ⇒情報処理実習 室端末更新	⇒点検整備 ⇒点検整備	⇒点検整備 ⇒点検整備	⇒点検整備 ⇒点検整備	⇒点検整備 ⇒点検整備
○入学生の安定的確保					
・将来計画の検討（令和2年 度より検討開始）	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・オープンキャンパス強化	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・進学懇談会／入試説明会	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・広報活動（高校訪問）	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・多様な入学者の受入れ	⇒職業訓練生	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
○地域連携の強化					
・自治体／地元産業との連携 （就職ガイダンスなど）	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・舟形町との連携	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
○生涯教育の推進	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・公開講座の実施					
○高大連携の強化	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・天童高校との連携	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・進路ガイダンス					
○大学間連携の強化	⇒拡張継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・山形県未来創造プラット フォーム	(天童市の加入)				
○就職支援の強化					
・インターンシップ	⇒制度整備	⇒制度試行	⇒実施	⇒継続	⇒継続
○附属園との連携強化					
・障害児保育研究センター	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
○評価に基づく PDCA の推進					
・第三者評価	⇒自己評価	⇒自己評価	⇒評価準備	⇒認証評価	⇒改善整備
・外部評価委員会	⇒実施継続	⇒実施継続	⇒実施継続	⇒実施継続	⇒実施継続
○外部資金の獲得					
・私立大学等改革総合支援事業	⇒採択を目指す	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続
・科学研究費補助金の獲得	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続	⇒継続

## ○山形調理師専門学校

- 1 時代や社会の要請に応じ、有能で人間性豊かな調理師の要請を目指します。
  - (1)徹底した基礎教育や専門性、応用力を高める科目横断型授業を展開していきます。
  - (2)就職につながる実践的カリキュラムを構築していきます。
  - (3)能動的な学習へと繋がるシラバスの開発を続けていくとともに、学生個々に応じた適応学習などの学習支援に努め、学生の能力向上に寄与できる教育方法の開発を続けていきます。
  - (4)規範意識を高く保ち、正しく考えて行動する力「アカデミック・インテグリティ」を醸成していきます。
    - ※アカデミック・インテグリティ  
学生がテストでカンニングやレポートの盗用などの不正を行わず真摯に学び、研究方法と原則を理解し、実践すること。
  - (5)ライフデザイン力が身に付く進路支援体制を構築していきます。
  - (6)教育訓練給付制度の指定専門学校の特徴を活かし、社会人・既卒者と高校新卒者との異世代によるコミュニケーション力の育成を図っていきます。
  
- 2 魅力ある学校づくりのため、次に取り組んでいきます。
  - (1)他校と連携して授業研究を行い、教職員の資質向上に努めます。
  - (2)「作品コンクール」や「山調料理教室」などの開催を通して、地域との協調を図り、コミュニティ発展に貢献できる存在であり続けます。
  - (3)学校法人羽陽学園のステークホルダーを活かして、幼稚園児や保育園児との関わりを創っていきます。
  - (4)教員確保に向けて、普段から情報収集に努めていきます。
  
- 3 入学者増に向けた学生募集の充実に取り組みます。
  - (1)高等学校に対して、調理高度技術科 A0 入試制度並びに「山形県私立専門学校授業料等減免制度」対象校の浸透を図ります。
  - (2)オープンキャンパスの開催回数を増やすとともに、在校生による支援活動を通して、より親しみの感じる体験を目指します。
  - (3)「山調ブログ」の更新とホームページとの連携による知名度向上を図ります。

(主要事業とその工程)

主要事業・施策	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
○時代や社会の要請に応じ、有能で人間性豊かな調理師の要請	<具体的方策>				
①徹底した基礎教育と専門性・応用力を高める科目横断型授業の展開	①授業作成要領に基づく授業カリキュラムの改善	継続検討	⇒	⇒	⇒
②就職実績につながる実践的カリキュラムの構築	②教科担当者・実習担当者間の情報交換による、シラバスの作成	継続検討	⇒	⇒	⇒
③能動的学習の充実や適応学習など個々に応じた学習支援・教育の開発	③シラバスを活用した学習支援	⇒	⇒	⇒	⇒
④規範やモラルを守り抜き、正しく考え行動する「アガミック・インテグリティ」の醸成	④成績規程の厳格な運用による規範教育の徹底	⇒	⇒	⇒	⇒
⑤ライフデザイン力の醸成と第一希望進路の実現をサポートする進路支援体制の強化	⑤面接指導の充実と学生一人ひとりの特性に沿った就職指導の実施	⇒	⇒	⇒	⇒
○魅力ある学校づくり					
⑥教職員の資質向上	⑥他校との連携による授業研究	⇒	⇒	⇒	⇒
⑦地域や関係団体との連携強化によるコミュニティ発展への貢献	⑦地産地消に資する「作品コンクール」の実施	⇒	⇒	⇒	⇒
⑧学園のステークホルダーを活かした縦の繋がり創出	⑦「山調料理教室」による地域貢献	⇒	⇒	⇒	⇒
○入学者増に向けた学生募集の充実	⑧羽陽学園短期大学附属園卒園児へのランチ提供	⇒	⇒	⇒	⇒
⑨AO入試制度並びに山形県私立専門学校授業料等減免制度の浸透	⑨学校案内パンフレットの充実	継続検討		改訂検討	
⑩入学者の意欲に合わせた魅力あるオープンキャンパス	⑨高校訪問による制度周知	⇒	⇒	⇒	⇒
⑪ブログとHPによる知名度向上	⑩オープンキャンパスでの学生サポーター活用	⇒	⇒	⇒	⇒
	⑪ブログ：週2回の更新 HP：オープンキャンパス毎更新	⇒	⇒	⇒	⇒



## ○附属幼稚園・認定こども園

少子化問題は改善の兆しが見えず、その一方で、待機児童問題解消に向けて保育施設が新設されてきている。そのため、安定的に推移してきた附属園の園児数は、今後ますます他園との厳しい競争に晒されていくことが大いに予想される。このような状況下にあって、今後5か年の中で次のことに取り組み、選んでもらえる魅力ある園づくりを推進します。

### 1 附属園としての強みを活かす「保育の質の充実」

- (1) 短期アクションプランで取り組んできた羽陽学園短期大学の保育理論の実践を軌道に乗せ、附属園ならではの質の高い保育を提供します。
- (2) 短大との連携により、それぞれの園の特色をより伸ばし、地域特性やニーズに対応した魅力ある保育を提供し、3歳未満児の受入れをはじめとする園児募集を推進します。
- (3) 他園の公開保育に積極的に参加するとともに、自園での公開保育を核とした園内研修の充実を推進します。

### 2 職員個々の強みを活かす「人的資源の充実」

- (1) ベテランから若手まですべての年代のすべての職員を大切にし、それぞれの強みを活かす適材適所の人材配置を進める。そして、生きがいとやりがいをもって生き生きと力を発揮し、組織に貢献する人材を育成します。
- (2) 4つの園と（小規模保育事業所）を持つことを強みとし、附属園間の人事交流を活発に行い、組織を活性化します。そして、切磋琢磨しながら職員個々の力量を高めていく。
- (3) 短期アクションプランで取り組んできた短大の指導による園内研修や 公開保育、外部研修会への職員の積極派遣を通して、職員個々の資質向上に努める。
- (4) 養成校附属園として教育実習を充実させ、新規人材の育成と確保に努めます。

### 3 職員の年齢構成の是正と優秀な人材が集まる「働きやすい環境の充実」

- (1) 今後、若手の供給が抑制され50代の教職員数が増加していくことが予想される年齢構成の歪みを是正するために、勸奨制度の導入を検討していきます。そして、安定的に新人を供給しながら、量的にも十分な人的環境を維持し、幅広い年齢層の職員が生き生きと働く職員構成を実現します。
- (2) 「羽陽学園短期大学附属園人材確保プロジェクトチーム」答申に則った働き方改革をなお一層推進し、安心して働ける環境を充実させ、優秀な人材を集めます。

### 4 のびのびと笑顔いっぱいに園児が楽しむ「施設設備の充実」

- (1) 平成25年のこのみ保育園の新設、令和元年の大宝幼稚園園舎の新築の後を受けて、鈴川、鈴川第二、たかだまの3園について、トイレや水回り等、老朽化してきている園舎の施設

設備改修(一部、全面改修等)のあり方の検討を進め、明るく魅力ある園舎にリニューアルしていきます。

- (2)改修のあり方の検討と同時に、鈴川幼稚園及びたかだま幼稚園の認定こども園への移行と幼保連携型認定こども園鈴川第二幼稚園このみ保育園の在り方についても検討を進めます。

#### 5 「地域に愛される園づくり」の一層の推進

- (1)地域に根を張る園として、地域の資源を活用した保育の実践を推進します。
- (2)創立から50～60年の長きにわたり、それぞれの地域に根差してきた歴史を基盤として、地域に愛され地域に親しまれる園として、近隣施設や地域、卒園児との交流等を尚一層推進します。

(主要事業とその工程)

主要事業・施策	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
○保育の質の充実					
①短大の理論実践	⇒実践	⇒	⇒	⇒	⇒
②短大との連携による各園の特色伸長	⇒推進	⇒	⇒	⇒	⇒
③公開保育を核とした園内研修の実施		⇒公開保育の実践	⇒	⇒	⇒
○人的資源の充実					
①強みを活かした適材適所の人材配置	⇒推進	⇒	⇒	⇒	⇒
②積極的な人事交流による組織の活性化	⇒推進	⇒	⇒	⇒	⇒
③外部研修・公開保育への積極的参加	⇒推進	⇒	⇒	⇒	⇒
④教育実習充実と人材確保	⇒実践	⇒	⇒	⇒	⇒
○働きやすい環境の充実					
①勸奨制度検討	⇒制度検討	⇒中間報告	⇒試案完成	⇒試行	⇒試行
②働き方改革の推進	⇒推進	⇒	⇒	⇒	⇒
○施設設備の充実					
①施設設備改修の在り方の検討	⇒検討	⇒	⇒	⇒	⇒
②認定こども園化等の検討	⇒検討	⇒	⇒	⇒	⇒
○地域に愛される園づくり					
①地域の資源を活用した保育の実施	⇒実践	⇒	⇒	⇒	⇒
②近隣施設や地域、卒園生との交流推進	⇒推進	⇒	⇒	⇒	⇒